

RCSI Bahrainからの交換留学生が臨床実習を実施しました。

高知大学医学部泌尿器科学講座および光線医療センターでは、2026年6月29日(月)から7月10日(金)まで、アイルランド王立外科医学院バーレーン校(RCSI Bahrain)医学科2年生のAshleigh Suzu-Nishio Takemotoさんを迎え、臨床実習を実施しました。

実習期間中は、泌尿器科の外来診療や検査、処置、手術の見学に加え、泌尿器科疾患に関する講義や基礎研究など、幅広いプログラムに参加していただきました。

手術見学では、ロボット支援手術、尿路結石治療、膀胱がんに対する光線力学診断(PDD)を用いた手術など、泌尿器科領域における多様な治療に触れていただきました。実際の臨床現場を見学することで、日本の医療や泌尿器科診療について理解を深める機会となりました。

また、本学の臨床実習生とともに講義や実習に参加したほか、医学科学生との交流の機会も設けました。国や大学、学年を越えて、医学教育や学生生活について語り合い、本学の学生にとっても、異なる文化や医療教育に触れる貴重な機会となりました。

滞在中には、泌尿器科学会四国地方会にも参加し、四国各県の泌尿器科医や研修医との交流を深めました。大学や地域の枠を越えて、泌尿器科診療や医学教育について意見を交わす機会となりました。さらに、テレビ局や新聞社による取材も行われ、国際的な医学交流の取り組みを広く発信する機会にも恵まれました。

学外研修では高知県内各地を訪れ、高知の歴史や文化にも触れていただきました。修了式では、実習を通じて学んだことや印象に残った経験についてプレゼンテーションを行い、修了証を授与しました。

今回の実習が、Ashleighさんにとって日本の医療や臨床・研究の現場への理解を深め、将来、国際的に活躍する医師を目指すうえでの一助となることを願っています。また、今回得られた経験や出会いを生かし、日本とバーレーンをはじめとする多くの国々をつなぐ架け橋として活躍されることを期待しています。Ashleighさん、ありがとうございました！！



光線医療 関連発表および論文

下記の光線医療関連の学会発表および論文が発刊されました。

(論文発表)

[筆頭著者] Shigehisa Ryu

Comparison of Automated Urinalysis Parameter Atyp.C and Urine Cytology for Detecting Bladder Carcinoma In Situ

Cancer Diagnosis & Prognosis Jul-Aug; 6(4): 715-722. DOI: 10.21873/cdp.10571

(学会発表)

[筆頭] 瀬尾 智

「肝胆膵外科におけるSimulation & Navigationの最前線—安全で精緻な手術を目指して—」

第51回日本外科系連合学会学術集会 2026年6月25日 横浜

[筆頭] 井上啓史

「癌に対する逐次光線医療」

Kobe Urologist Meeting 2026年6月25日 神戸

[筆頭] 三根実穂子

「サイドファイヤーディフューザーを用いて頭頸部アルミノックス治療を行った下咽頭病変2症例」

第50回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会 2026年6月11日-12日 東京

光線医療センター ニュースレター

2026年 7月 24日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>